

# あ お ぞ ら

【第113号】 平成24年 秋季号

発行日 2012年10月26日

協力：朗読ボランティア 《ういろうの会》



## みたかハンディキャブ・スローガン

# 真心と笑顔で走る「あおぞら号」

2012年9月 ハンディキャブ公募作品より選考

9月8日(土) 新企画「ちょこ旅」第一回催行  
「隅田川クルーズと東京スカイツリー眺望」  
利用者さんと家族計8名 ボランティア4名参加  
好天にも恵まれた新スポットを巡る小旅行でした。  
今後、キャブとして斬新で手軽な「ちょこ旅」の  
企画を繰り出す予定です。ご期待下さい！



## 「ちょこ旅」参加利用者さんの感想

鈴木ますみ 様

### 『ちょこ旅：水上バスとスカイツリー周辺散策』

9月8日のハンディキャブの1日遠足は、募集人数が少ないことから、申し込みはしたもの、行けるかなーと不安に思っていました。幸い参加できると連絡を受けた時は、自分の幸運を本当にありがたいことと思いました。当日の天気予報では雨が降るとのこと。雨具持参での参加となりました。早めに朝食を摂り、準備をしてお迎えを待ちました。市役所から2台の車で出発しました。高いビル街に目を丸くしながら進むうち、雨が降りだしました。しぶきを上げて、強く、横なぐりに降っています。雨の中での外出などしたことが無かったので、興味深く、傘を斜めにさして、歩道を歩く人や、合羽を着て、自転車で行く人などを眺めていました。途中、急に雨がひどくなったり、ほとんど止んだようになり、その変化が面白かったです。目的の水上バスの乗り場に着いたときには、なんと雨はあがっていたのです。同じ水上バスに乗ろうと集まっている人々は、相当の数ようです。ハンディキャブの方の指示で1列に並んで、待ちました。そのとき、係りの方が車椅子の私たちは列の先頭に行くようにと先導してくださいました。水上バスに乗るのは、初めてです。乗り込む時は、緩やかなカーブを下がり、船にはスムーズに移動できました。船の中では、1階の船べりに車椅子を停めて、川面が眺められました。船が動き始めた頃、また雨が降り出しました。頂いた地図を見ると、いくつもの橋をくぐるようです。橋を渡ったことはあっても、くぐるのは初めてで胸が高鳴りました。船上から、東京タワーとスカイツリーが見られました。下船した浅草の隅田公園から再び車に乗り、昼食を摂る浅草ビューホテルへと向かいました。ホテルの26階のバイキング会場は、正面にスカイツリーが眺められる特等席でした。お料理の味付けは薄味で美味しかったです。ホテルの前から車でスカイツリーの近くまで、連れて行っていただきました。車を降りると、すぐ近くにスカイツリーが見えました。大きいのにびっくりしました。近くへ行くと、もう上の方は良く見えません。スカイツリーをバックに、皆で記念写真を撮っていただきました。スカイツリーの近くまで、障害者の私が行けたのは、一重に、ハンディキャブのお陰だと、感謝しています。



西浦さん

鈴木ますみと主人です



## ◆利用会員の皆様へ◆ みたかハンディキャブの利用を希望される方をご紹介します。

- ☆ 障がい者・高齢者で移動にお困りの方
- ☆ 電車やバスのご利用が一人では難しい方
- ☆ 透析患者で常時通院なさる方
- ☆ 目的地まで単独歩行の困難な方



台風17号が押し寄せてくる予報の9月30日(日) 第34回福祉バザーが三鷹市暫定管理地(通称・大屋根広場)で開かれました。朝8時過ぎから準備開始。皆様のご協力で集められた品々は数日前からの仕分け作業により、電化製品、花瓶などの陶器類、バック・靴などの日用品、そして洋品類等々と分類された品々が足の踏み場もないくらい列べられ、準備完了。

10時開店とともに黒山の人だかり・・・とまではいかないけど、ぞくぞくとお客さんがやって来てくれました。売り子のハンディキャブのメンバー25人ほどはてんてこ舞いの忙しさ。

- \* あれこれ品定めをする人。
- \* 安くしてあるのにさらに値切ろうとする人。
- \* いったり来たり何回も探りに来る人。
- \* どこかの業者さんかと思うほど、たくさん買い込んでくれる人。
- \* 冷やかすだけで何も買わない人。
- \* ただ素通りしていく人。

などなど沢山の皆さんののおかげでお昼頃には山積された品物もかなりさばけました。

心配された台風も到来が夕方となり、幸いにも開催中は好天に恵まれました。

こうして、ほとんど完売に近い状態で終了することができました。最後になりましたが、バザー用品を提供していただいた皆様、心から御礼申し上げます。また、バザー開催に向けて準備、販売、片づけなどご協力頂いた皆さん、大変ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。なお、今回のバザーでの売り上げは55,633円になりました。ここに謹んでご報告申し上げ、皆様方のご協力で改めて感謝いたします。有り難うございました。



### 生活支援 新企画 「買物ツアー」を検討しています。

#### イメージ

- 買物場所 : (例) イトヨーカ堂 武蔵境店 自宅お迎え⇒ヨーカ堂⇒自宅送り  
 買物日 : 毎週土曜日2回催行  
 買物時間 : ①午前10時～12時 ②午後2時～4時  
 ツアー形態 : キャブ車両1台～2台使用 運転手と必要に応じて添乗員が同行します。  
 利用者および付き添い者2名1組 単身者も参加可能  
 自宅お迎えしてイトヨーカ堂にて車両待機、買物後、自宅へお送りする。  
 実施の時期、参加費用および買物介助の方法等、詳細検討中  
 ご要望・ご意見・アイデアをお寄せ下さい



## 交流の広場

利用会員 やまのうち じゅんこ 山内 潤子 様 インタビュー

一人暮らしで、気兼ねなく  
楽しく、寂しく暮らしています。



私は、熊本県の天草で生まれました。先天性の盲目でしたが、子供のころ、押入れから飛び降りたり、おっかけっこをしていて玄関から落ちたりするなどお転婆でした。歯科医の父と教師の母という両親に育てられ、しつけが厳しくて、朝起きるとそれぞれ家族の人がいるところに行き一人一人に挨拶をしたり、朝の食事はいつも家族一緒にそろってするというのが家訓になっていました。おかげで、今でも挨拶をするのが苦にならず、レストランから出るときなども「ごちそうさまでした。」と必ず挨拶をしています。

そして高校の時に、親元を離れ、東京の盲学校にはいりました。寄宿生活でしたので、長い休みには一人で汽車に乗って田舎に帰っていました。

1972年2月から三鷹で生活しています。普段の生活は、全盲なのでいろいろ不便ですが、薬や診察券はそれぞれ袋に入れて、点字で説明を書いたり、電話をかけるときは左手で点字の電話番号をしらべながら、右手でボタンを押してかけたり、洋服などは「カラトーク(色見分け器)」という器械で色を調べてコーディネートしたりするなど工夫しています。

私の趣味は音楽です。小さい頃からコーラスをしたり、琴やピアノを習ったりしていました。30年位前からコーラスのサークルに入っていて、今は二つのサークルで練習しています。また、リコーダーの個人レッスンも受けています。音楽は楽しいですね。

主人は、啓次(ひろつぐ)といいますが、亡くなって10年ほどになります。「医療と福祉を考える会」の会長をしたり、福祉懇談会の活動に取り組んだり、世話をしたり、役員をしたりするのが好きだったようです。

主人は最初、弱視だったのですが、途中から全盲になり、それまでやってくれていた買い物などが出来なくなったために、私が動かざるをえず、それから私の一人歩きが盛んになっていきました。近所のお店の人も顔なじみになっています。

今も元気で生活できているのは、一つは細い白杖ともう一つは信仰による神様という二本の杖が守ってくれているからだと思います。

ハンディキャブのおかげで元気にコーラスに通い、楽しい毎日をすごしています。最近始まった「ちょこ旅」はとてもいい企画ですね。私も是非参加してみたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。

(インタビューをもとに、編集部 坂本・伊藤でまとめさせて頂きました。)

### 運転ボランティア募集中 あなたのちからが必要ですよ！！

私達は福祉車両「あおぞらA～H号」の8台を使用して、障がいや高齢のために移動が困難な方の外出をお手伝いしています。この「あおぞら号」を運転して下さる方を募集しています。ご応募をお待ちしています。また、お知り合いの方がいらしたら、是非ご紹介ください。

NPO 法人 みたかハンディキャブ TEL0422-41-0185 までご連絡下さい。  
三鷹市上連雀 8-3-10 みたかボランティアセンター二階(三鷹図書館本館の南隣り)



I Q キャブの認知度の向上・利用者を増やす方法は？

A 昨年度来、利用会員の増加を図るべくパンフレットの作成、街頭宣伝などを行ってきましたが、顕著な効果ほどには至っておりません。さらに、効果を期待する次のような取り組みを展開します。

- I 三鷹ケーブルテレビの活用
- II 各施設へのパンフレット配布、
- III 三鷹地域ケアネット、ほのぼのネットなどへのアプローチ
- IV 交流誌「あおぞら」・ホームページの活用 等々



II Q 運行形態の変更は？

A 利用者様の利便性を高めるための運行利用規定の改定を5月より実施しています。その後、運行件数も増加傾向がみられ概ね好評に推移していると考えております。また、新しい利用形態の提供を検討して病院等のみならず外出支援サービスの一環として少人数で出かける小旅行企画「ちょこ旅」を9月より実施しております。更には、利用規定改定に伴い「運行利用のしおり」を見やすく、分かり易いものに全面刷新して10月に配布致しました。今後、適正な運行利用料金改定にむけた検討をすすめております。ご負担をおかけすることとなりますが、ご理解ご協力をお願いします。

III Q 利用会員の障がい情報を運転ボランティアに周知する必要性があるのでは？

A 乗降の際および運転移動中の利用者様配慮のために、運転ボランティアが障がいの状態を把握していることは、安全、快適な運行に大切なことと認識しています。一方で、利用会員のプライバシーを尊重する秘守義務も極めて大切です。この二律背反を運行に反映させ周知してゆくのは難しい課題ですが取り組みます。今後、必要な情報を必要な人に適切に伝える仕組みづくりを検討していきます。

IV Q 事故対応のドライブレコーダーの設置を検討しては？

A カーナビゲーション、バックモニター、ドライブレコーダー等、近年多くの運転支援システムや機器、技術が発達しております。当グループには、まだ一部の車両しかカーナビゲーション、バックモニター等を搭載しておりません。これらの機器採用には、「安全運転に資するもの」が優先するポイントであり、まず車両点検、整備、消耗品の交換等が不可欠です。次に、新たな技術採用は「投資対効果」をよく見定めてゆく必要があると考えます。

V Q 運転ボランティアの運行時配慮（乗降時のスペース確保）が必要

A 運行の際、個別のケースで道路や交通状況、天候や時間帯などにより利用者様に必ずしも満足頂けない対応もあることは否定できません。会議や教育の機会を通して安全、快適な運行に結びつく注意を喚起していきます。また、特に具体的に注意すべきことがある場合には、事務所にご相談下さい。



ハンディジョーク二題

医者と患者 ①

アル中の男が医者に診てもらいにきた。  
男の手は絶えずブルブル震えている。  
医者が尋ねた。  
「こりゃひどい！ あなたはたくさん飲むんでしょな？」  
患者は答えた。  
「それほどでもありませんや。殆んどこぼしてしまうもんで。」

医者と患者 ②

患者「先生、私初めての手術なものですから、とても心細くて心配なんです。」  
医者「お気持ちはよく分かります。私も初めてなんで。」



編集後記

平成24年秋季号をお送りします。この交流誌は、ハンディキャブの活動を通じて、年間4回発行する相互交流の場です。金木犀の香りや紅葉を愛でる移りゆく季節。日常の通院、リハビリだけでなく「ちょこ旅」や「買い物ツアー」などの外出機会を増やし生活を豊かにする企画を考えています。日頃の安心・安全・快適な運行に合わせて是非ご参加下さい。

発行

NPO法人みたかハンディキャブ  
〒181-0012 三鷹市上連雀8-3-10  
みたかボランティアセンター2階  
TEL 0422-41-0185  
FAX 0422-41-0274  
E-mail: m-cab@parkcity.ne.jp  
ホームページ: みたかハンディキャブ

文具・事務用品

**誠文堂**

新青梅街道 西武有明駅 徒歩1分

TEL: 042-422-9447  
西東京市谷戸町2-9-3

名刺・はがき・封筒・チラシ等の印刷 (データ持込可) 印章・各種ゴム印 ラミネート加工等 全てがスピード対応!! とにかく便利なお店です。是非一度ご来店ください。 http://seibundo-n.com